

当として、生活をオリキャン一色に染めて過した三ヶ月をふり返ると、この企画に対して全く無知だった事と、自分の無鉄砲さに、あきれてしまうことがある。

あのたった二日間の為に、半年以上の時間を費して準備をする。たった一枚の班写真の為に、たった一張りのテントの為に、たった二時間のファイヤーの為に、船で宮島を往復する為だけに、何度もマニュアルを書き、話し合いを重ねる。記録係としてほぼ全ての行事に参加させてもらったが、昨年、ひたすら楽しんで終ったこの企画が、こんなに綿密でずさまじいばかりの企画であることに驚きつ

つも、フアインダー越しに見た全ての人が、例外なく美しく輝いていたことを忘れないだろう。

個人的に、カメラの仕事は想像をはるかに超えて厳しかったが、その厳しさよりも、オリキャンに係るスタッフの一員として仕事をする楽しさのほうが、比較にならない程大きかった。現像された写真を、注文票を見て仕分けをする時、その量の多さにかなりうんざりしながらも、どの写真からも笑顔がこぼれそうなのを見て、しばし、ささやかな自己満足にひたつてしまうのである。

オリエンテーション(方向づけ)

総合科学部総合科学科二年生

上小城 敬幸

僕がオリキャンのフェローになる決心をしたのは去年のオリキャンの時、つまり自分が参加者としてあの宮島に行った時だった。言葉には表せないあの感動を後輩に伝えたい一心で決意したのだ。その決意のもとに準備、本番を終え、今オリキャンというものを振り返ると正直言って複雑な気持ちがある。絶えず心の中に引っ掛かっていたのは「オリキャンの意義」という言葉であった。オリキャンに対する賛否両論の様々な意見が飛び交う中準備をする自分にとってオリエン

テーション(方向づけ)という言葉はとてつもない圧力を与えたと思う。意義を考えることによって自分のしている準備はこれでいいのだろうかという暗中模索の毎日が続いた。自暴自棄になりかけたこともしばしばあった。しかし、意義に対する自分なりの答はでないままキャン本番を迎えた。そこには新入生のすばらしい笑顔があった。そこで僕は自分がその答を出さなくてもよいと思ったのだ。心配しなくても意義に対する答は新入生一人一人が一番よく知っているはずだからだ。言葉には出さなくても、心の中でこのオリキャンがこれからの大学生活にとって何らかの方向づけになっていることをオリキャンのフェローとしてただ祈るのである。

オリキャンを終えて

教育学部教科教育学科一年生

野崎 一朗

大学では、何でも積極的にやっていきたいなあと考えていた僕は、迷わずオリキャンに参加することにしました。たった一泊二日で何が出来るだろうかと心配にもなりましたが、その心配はまったく無用のものでした。顔合わせに始まる約一週間の準備期間で、班員といろいろ話をすることができて、衣装製作のために夜遅くまで大学に残ったりもしましたが、それもまた楽しく、キャンブ当日への期待は高まる一方でした。

そしてキャンブ当日。快晴。僕は前夜完成したばかりの白衣に身を包み、どこから見ても完璧な看護婦として宮島に到着しました。たった一泊二日といえども、ここでは実に多くのことを体験し、感じる事ができました。景色の美しさ、開村式が始まった時の大きな期待感、地面が固くて、悪戦苦闘したテント設置。またレクリエーションでは大いに笑い、後の夕食準備では煙のために目を真っ赤にしたりもしました。それから夜のファイヤーでは、二千人各々が持った小さな火がゆれる美しさに息を呑み、夜の寒さに身を震わせ、翌朝は寒いながらもすがすがしさを感じました。そしてあつという間に閉村式を迎えて、いろいろお世話になったフェローの方を胴上げした後は、少しだけ淋しさを感じましたが、ここがまた新たな出発点だと思ふと、また元気が出てきました。こんなに楽しい時間を与えてくれて、大学生活のよいスタートを切らせてくれたこのオリキャンに、僕は本当に感謝しています。



オリエンテーションキャンプ風景



オリエンテーションキャンプ総局長

フェローとは

仲間、同僚の意味がありますが、約10人の新入生を先生と共に世話をする班のリーダーで、2年生がこの重責を担ってます

新入生のとき参加できなかった人も、今年数人フェローとしてお世話してます

